

2013年10月25日

## 第668回 本委員会の主要議題と概要

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会（会長 日覺 昭廣 東レ株式会社 代表取締役社長）では、本日11時より第668回 本委員会を開催しました。

主要議題およびその概要は以下の通りです。

### 1. 化繊協会の情報発信事業について

### 2. 平成26年度税制改正要望について

平成26年度税制改正要望を決定。ポイントは以下の通り。

①生産等設備投資促進税制の拡充

平成25年度税制改正で創設されたが、要件緩和や控除枠の拡大を要望する。

②5%到達償却資産にかかる固定資産税の免除

当該資産の5年間の均等償却期間終了後の固定資産税の撤廃を要望する。

③印紙税の廃止

電子商取引など商取引形態の多様化に鑑み、印紙税の廃止を要望する。

④地方税の申告納税制度の簡素化

法人住民税と法人事業税の申告実務を簡素化を要望する。

⑤事業所税の廃止

法人事業税や固定資産税との重複課税となっており、廃止を要望する。

⑥地球温暖化対策税（石油石炭税）の見直し

国内製造業のコストアップ、国内空洞化助長の懸念などから見直しを要望する。

### **3. エコプロダクツ展 2013 への化繊協会コーナー出展について**

12月12日（木）～14日（土）の3日間、東京ビッグサイトで国内最大規模の環境展「エコプロダクツ 2013」（主催：（一社）産業環境管理協会、日本経済新聞社）が開催されます。

化繊協会では、帝人、東レ、クラレ、東洋紡、旭化成、ユニチカ、三菱レイヨン、セーレン、ダイワボウの9社が共同で「グリーンな未来へ ～進化する化学せんい」のテーマで出展します（東展示場 2 ホール/小間番号 2-031）。同展示会への出展は2004年から続けており、今回で10回目となります。

①化学せんいによる快適でエコな衣生活、②化学せんいによる軽量で低炭素な交通システム、③化学せんいによる水環境や大気環境の保全、以上の3つのコーナーを設け、昨年、初の試みとして好評だった「教室」としての機能を拡充し、来場者の理解や関心度合いをさらに高めることを目指します。

### **4. 第 19 回中国国際化繊産業会議の概況報告**

9月5日（木）～6日（金）の2日間、中国の浙江省桐郷市にて、第19回中国国際化繊会議が開催され、その概要について報告がありました。

中国国際化学繊維会議は中国で開催される化学繊維の国際会議であり、1985年の第1回北京国際化繊会議（第9回より中国国際化繊会議に名称変更された）から数えて19回目の開催となります。

今回は、中国、日本、欧州、インド、韓国、台湾、タイ等の代表者からの現状報告およびフォーラム、5つの分科会が開催され、中国からは中国紡織工業連合会・王天凱会長、許坤元名誉会長、中国化繊工業協会・端小平会長、中国国内の大手化合繊メーカーの代表など約600名が参加しました。

今回の会議テーマは、「複雑な時代の化繊産業の新しい活力---技術、エネルギー、低炭素、ブランド構築」であり、端会長からは、技術開発と中国の化繊産業というテーマで講演が行われました。また、フォーラム（端会長の司会により、許名誉会長、発展委員会、工業情報化部の代表が出席）では、中国化繊業界が高成長から低成長時代へ変革する中での中国化繊業界の取り組む課題、供給過剰の状況への対応策（量から質への転換の重要性）などについて意見交換が行われました。日本からは、初日の総合セッションで、上田副会長より、世界の中長期の化合繊の需給見通しというテーマで講演を行いました。

## 5. 第 52 回ドルンビルン国際会議の概況報告

9月11日から13日の3日間、オーストリアのドルンビルンにおいて、第52回ドルンビルン国際化繊会議（主催：オーストリア化繊協会）が開催され、その概要について報告がありました。

本会議は、①欧州繊維産業の研究開発に関わる産学交流、②川上（素材）～川中（テキスタイル）～川下（最終製品）の情報交流の場として、1962年以降、毎年ドルンビルンで開催されています。

今回は、ドイツ、オーストリア、スイスなど計26カ国、675名が参加し、日本からも帝人、東レ、東洋紡、旭化成、カネカ、化繊協会など16名が参加しました。

今年度は、ファイバーイノベーション、繊維産業の持続可能なソリューション、新しい繊維の用途、仕上加工、スポーツ及び機能性衣料のテーマで、111件の発表が行われ、日本からは、帝人、東洋紡、旭化成、カネカなどから計8件の発表がありました。

<本件についての問い合わせ先>

担当：日本化学繊維協会 技術グループ 竹内・川名（03-3241-2312）

以上